



年度末の

# 学びの確認

の時期になりました

## 中部教育事務所だより 特別号

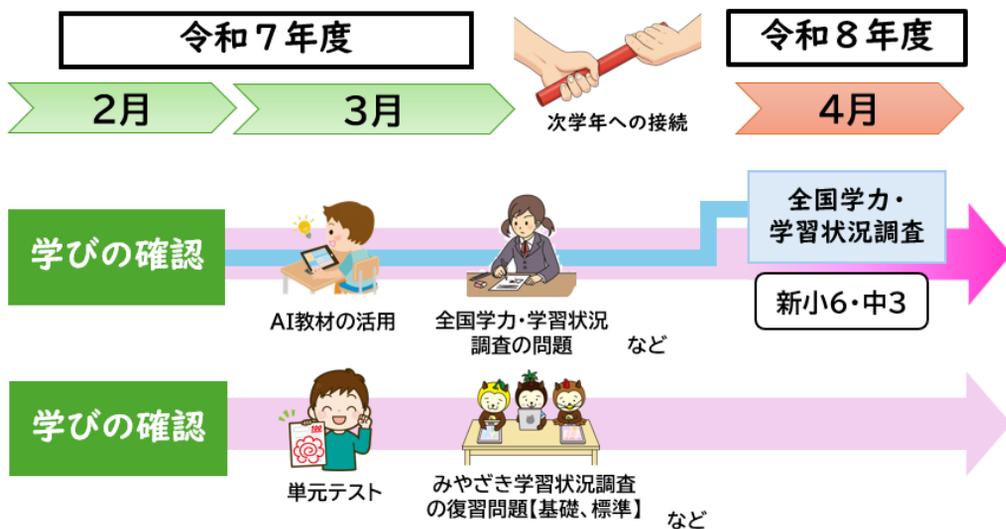


令和8年2月25日(水)

日頃より、子供たちの成長を願い、熱心に教育活動に取り組んでいただき、ありがとうございます。年度末を迎え、各学校におかれましては、諸表簿の整理や次年度への準備など、慌ただしい日々をお過ごしのことと思います。

一方で、この時期は、子供たちの一年間の学びを振り返り、学習内容の定着状況を見届ける重要な時期でもあります。下図に示したとおり、2月から3月に行う「学びの確認」は、単なる振り返りに留まるものではなく、「何が身に付き、何が課題か」を明らかにし、次学年の学びへと確実につなぐための取組です。残り少ない期間ではありますが、学力調査や単元テスト等を効果的に活用し、最後まで一人一人に寄り添った御指導をお願いいたします。

〔「学びの確認」の例〕



学びの確認

POINT

1

### 今、求められる力

を意識して取り組みましょう。

AI教材やプリント等を活用し、基礎学力の定着に加え、「どのような資質・能力が求められているのか」という視点をもって、学びの確認に取り組むことが大切です。

特に、現小学校5年・中学校2年については、全国学力・学習状況調査の問題を活用することも有効です。全国学力・学習状況調査の問題形式や問われ方は、今求められる資質・能力を反映した内容であり、これまで身に付けた資質・能力を確認する教材として非常に重要です。



- 今の学年で学習した内容を確実に身に付けた上で、次の学年へ進級させる。
- 「分かったつもり」で終わらせず、できるかどうかを見届ける。

学びの確認

POINT

2

### 組織的・継続的

に取り組みましょう。

学びの確認を確かなものにするためには、個々の取組にとどめず、学年や学校全体で目的や方法を共有して組織的に取り組むことが大切です。複数の教職員が関わり、日常の教育活動の中に位置づけたり、家庭学習と連携したりしながら継続的に取り組むことで、より確実な定着につながります。



- 授業の5分間で学びの確認を行うなど、無理なく継続的に行う。
- 「授業」→「家庭学習」→「確認」のサイクルで、確実な定着を図る。